

# 映画と絵画 Cinéma et peinture

講演「マティスと映画」(オンライン開催/通訳付)

日時	10.16 <b>金</b> 18:30	会場	アテネ・フランセ文化センター http://www.athenee.net/culturalcenter/ チケット情報:1,000円均一/先着順79名(当日券のみ)
ゲスト	ドミニク・パイニー (映画批評家、元シネマテーク・フランセーズ館長)		

2019年に南仏ニースのマティス美術館で開催された「Cinématissime シネマティス」のコミュッショナーを務めたドミニク・パイニーがアンリ・マティスの絵画、マティスと当時の映画人との貴重な写真、映画の抜粋などとともに、マティスと映画の間の非常に刺激性的な関係についてレクチャー頂きます。

「アンリ・マティスは熱心な映画観客、真のシネフィルで、シネクラブや映画館に足繁く通い、もっとも独創的で前衛的な作品に通じていました。ジャン・ルノワールからロバート・フラハティ、ルネ・クレールからF・W・ムルナウ、あるいは科学映画からターザンの映画まで、幅広く映画に感心を抱いていました。

マティスは当然のことながら映画を娯楽として鑑賞していましたが、その作品には映画からの決定的な影響、図象的(イコノグラフィック)、構成的な影響が見られます。彼が残したテキストからもそれが明らかです。マティスは自らの作品全体を「自分の感情のシネマトグラフィー」と認識し、画家として観察するには「時間的拡大鏡(ルーペ)」つまりカメラを用いていると記しています。

またその逆に、現代映画もマティスに多くを負っており、とりわけフランスのヌーヴェルヴァーグ(ジャック・リヴェット、エリック・ロメール、ジャン=リュック・ゴダール、ジャック・ドゥミ、アニエス・ヴァルダ……)にはその影響を見ることができます。これら映画史の改革者たちは、ロベルト・ロッセリーニやジャン・ルノワールと共に、マティスを自分たちの「親父」と見なしました。ヌーヴェルヴァーグの作家たちはそうしてマティスの作品の幾つかを自分たちの作品の中で引用し、マティスの即興のアートから着想を得ています。講演ではこうしたマティスと映画との知られざる関係を彼の作品や映画の抜粋をお見せしながら明らかにします」——ドミニク・パイニー

▼(左から)ムルナウとマティス、タヒチにて(1930年)©Succession H. Matisse / Photo: Archives Henri Matisse | アンリ・マティス《バベテ、タヒチ》(1935年) 油彩/カンヴァス ©Succession H. Matisse / Photo: Archives Henri Matisse | アンリ・マティス《みつばち》(1948年) 切り紙 ©Succession H. Matisse / Photo: François Fernandez | エリック・ロメール『海辺のポーリーヌ』ポスター(1983年) ©Les Films du Losange



【主催】アンスティチュ・フランセ日本【共催】アテネ・フランセ文化センター、映画美学校、イメージフォーラム・フェスティバル2020事務局【助成】アンスティチュ・フランセパリ本部【アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー】CNC、徳川日仏 財団、TV5 MONDE【協力】BOTA、コミュニティシネマセンター、コピアポア・フィルム【字幕制作協力】Bart.lab、ヴェッター公園

Organisé par : Institut français du Japon - Tokyo ; co-organisé avec : Centre culturel de l'Athénée français, The Film School of Tokyo, Image Forum Festival ; avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE ; remerciements : Bart.lab, Copiapoa Film Inc., BOTA Inc., Japan Community Cinema Center, Vutter Koehn



# 10.3 **土** ▶ 11.17 **火**

du samedi 3 octobre au mardi 17 novembre

[会場 Lieux]

スパイラルホール (イメージフォーラム・フェスティバル2020)

Spiral Hall dans le cadre de la 34<sup>ème</sup> édition du Festival Image Forum

シアター・イメージフォーラム

Theater Image Forum

アテネ・フランセ文化センター

Centre culturel de l'Athénée français

アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ

Institut français du Japon - Tokyo



▲アンリ・マティス《ジャズ ナイフ投げ》『ジャズ』(1947年) コラージュ ©Succession H. Matisse | ジャック・ドゥミ『シュルブルの雨傘』(1964年) ©Cine-Tamaris

[ゲスト Invités]

(\*) のゲストはオンラインでの出演になります。(\*) participants en ligne

マリー・ロジエ Marie LOSIER (\*)

ダミアン・マニヴェル Damien MANIVEL (\*)

三宅唱 Sho MIYAKE

ドミニク・パイニー Dominique PAÏNI (\*)

[お問い合わせ]

アンスティチュ・フランセ東京

〒162-8415 東京都新宿区市谷船原町15

Tel. 03-5206-2500 | Fax. 03-5206-2501

www.institutfrancais.jp/tokyo/

# 映画と

# クリエーション



vivre les cultures

絵画、写真、音楽、ファッション、ダンス……。映画は複合芸術として19世紀末に誕生し、それらを包含し、またそこから影響を受けながら、独自の形式、表現方法を進化させてきました。絵画、ダンス、演劇、スポーツ、音楽……。そうした他の創造分野と映画との接点を探るべく、日仏の映画監督、専門家をゲストに迎え、それぞれの影響、類似点や相違点をテーマ別に考察します。関連作品や画像の抜粋とともに、オンライン形式も含めたゲストのトークショーを開催します。また、「読書の秋」と連携し、BDや男女同権に関連した講演とともに、短編アニメの上映も行う予定です。秋の夜長を、素敵なお客とともに、芸術の多様な関係性、そこにある深遠なる魅力、可能性をご堪能ください。

イメージフォーラム・フェスティバル 2020 共催企画

## マリー・ロジエ特集：マリーのワンダーランド Rétrospective Marie Losier

日時	9.28(月)▶10.3(土)	会場	スパイラルホール 東京都港区南青山5-6-23
ゲスト	マリー・ロジエ (映画監督) ティーチン (オンライン/通訳付)		

マリー・ロジエを迎えて(オンライン開催/通訳付き)|10.3(土)|17:00『フェリックス・イン・ワンダーランド』上映後  
映画の中のアーティストたちの肖像 Portraits d'artistes dans le cinéma

毎年、世界中の先鋭的な作品を集めて話題の映画祭、イメージフォーラム・フェスティバルにてマリー・ロジエ特集が開催されます。名だたるアヴァンギャルド・アーティストのポートレートを、自らのポップでキッチュな世界観へと引き込んで描きあげ、ドキュメンタリーの常識を打ち砕く独自のフィルムグラフィックを築きあげてきたロジエは、ミュージシャン、作曲家(『ジェネシスとレディ・ジェイのバラッド』)、あるいはルチャ・リブレのスター(『ルチャ・リブレの女王 カサンドロ』)に寄り添い、彼らの人生や創作行為を記録していきます。その撮影自体がライブ・イベントであり、アーティストとの共同パフォーマンスと言えるでしょう。カンヌ映画祭やベルリン映画祭、ロッテルダム映画祭、ニューヨーク近代美術館、ポンピドゥー・センター、シネマテーク・フランセーズ、ホイットニー美術館ピエンナーレなどでも上映され、世界的に高い評価を得ているロジエを、10月3日(土)『フェリックス・イン・ワンダーランド』(17:00~)上映後に迎え、映画が多分野のアーティストたちをどのようにとらえることができるのか、国境や領域を越えて映画の持ち得る自由な可能性についてお話をお聞かせします。

[上映作品]トニー・コンラッド:ドリーミニマリスト Tony Conrad, Drea Minimalist [アメリカ/2008年/25分/デジタル]、フェリックス・イン・ワンダーランド Felix in Wonderland [フランス・ドイツ/2019年/49分/デジタル]、ルチャ・リブレの女王 カサンドロ Cassandro the Exotico! [フランス/2018/73分/デジタル]、ジェネシスとレディ・ジェイのバラッド The Ballad of Genesis and Lady Jaye [アメリカ・ドイツ・イギリス・オランダ・ベルギー・フランス/2011年/75分/デジタル]

イメージフォーラム・フェスティバル 2020 開催概要

[www.imageforumfestival.com/2020/](http://www.imageforumfestival.com/2020/)

[東京]9月26日(土)~10月2日(金):シアター・イメージフォーラム(東京都渋谷区渋谷2-10-2)/10月2日(金)~4日(日):スパイラルホール(東京都港区南青山5-6-23)[名古屋]11月21日(土)~23日(月・祝):愛知芸術文化センター(愛知県名古屋市東区東桜1-13-2)

▼(左から順に)マリー・ロジエ|『フェリックス・イン・ワンダーランド』|『ルチャ・リブレの女王 カサンドロ』|『ジェネシスとレディ・ジェイのバラッド』



## 映画とダンス Cinéma et danse

協力: COPIAPOA FILM

日時	10.9(金) 21:00	会場	シアター・イメージフォーラム <a href="http://www.imageforum.co.jp/theatre/">http://www.imageforum.co.jp/theatre/</a>
ゲスト	ダミアン・マニヴェル、三宅唱		

チケット情報:1,200円均一 \*「イサドラの子どもたち」ご鑑賞時の座席指定券提示の方は500円。開催当日20:30よりシアター・イメージフォーラム ロビー内 特設受付にて販売開始。当日券のみ。

フランスの俊英ダミアン・マニヴェルの最新作で、第72回ロカルノ国際映画祭最優秀監督賞を受賞した『イサドラの子どもたち』が9月26日より日本公開されます。元ダンサーでもあるマニヴェルはその作品の中でつねにコレオグラフィックな身体の動きを取り入れた演出をしてきましたが、この最新作では伝説のダンサー、イサドラ・ダンカンのダンスを世代の異なる四人の女性たちが自分たちの身体、そして生活の中に受け入れていく姿を丁寧に描いています。ミュージシャン (OMSB、星野源)、建築家 (鈴木了二)、そして石橋静河を初めとする若い才能たちとのコラボレーションや、様々な場所、風景とのつながりの中で創作の可能性を探り続ける映画作家、三宅唱もお招きします。日仏両国で、独自の方法、スタイルによって刺激的な活動をしているおふたりに映画の中の身体の動き、ダンスとの繋がりについて、関連作品の抜粋上映を交えて話をお聞かせします。

▼ダミアン・マニヴェル『イサドラの子どもたち』



ダミアン・マニヴェル



三宅唱

## 読書の秋 2020 Festival Feuilles d'automne 2020



### フランスの女性向けバンドデシネと アニメを通じて学ぶこれからの女性の生き方

Soyons audacieuses! BD et animés pour sortir des cases

日時	11.17(火) 18:00 (要申込/オンライン配信/日本語のみ)	会場	アンスティチュ・フランセ東京 <a href="http://www.institutfrancais.jp/tokyo/agenda/culottes/">www.institutfrancais.jp/tokyo/agenda/culottes/</a>
ゲスト	はらだ有彩 (漫画家)、ミュリエル・ジョリヴェ (社会学者)、浜田敬子 (司会/Business Insider Japan 統括編集長)、若宮和男 (uni'que CEO/『ハウ・トゥー・アートシンキング』著者/ランサーズタレント社員)		

自分の情熱を追い求める勇気を持ち、女性を取り巻く現状を動かし、美の規範に囚われないで生きるにはどうすればよいのでしょうか? バンドデシネとアニメからヒントを得られるかもしれません。特にベネロップ・バジューの「キュロテ」に描かれる世界中の女性達の姿には励まされます。本討論会は「キュロテ」の短編アニメのエピソードに触れながらこのテーマを考えます。  
\*当日、登壇者のいる会場での聴講をご希望の方は、入場は無料ですが、座席数が限られておりますので、必ず事前にアンスティチュ・フランセ東京サイトでイベントのページの専用フォームからお申込みください。



[主催]アンスティチュ・フランセ日本 [協賛]ヴェオリア・ジャパン株式会社 [協力]Du Books、柏書房、ヒューマンライツナウ、日本女性学研究会、パリエカフェ